

津高同窓会報

発行所

津市新町3丁目1-1

津高等学校
同窓会事務局TEL・FAX 059-229-7331
共立印刷株式会社

新たな伝統

ごあいさつ

同窓会長 飯田俊司(昭和36年卒)



昨年六月、会長に就任してから早や一年半が経ちました。

この間、十九年、二十年の総会・パーティー、カンボジア・ベトナム旅行、学年対抗ゴルフ大会などのイベントがありました。

津高同窓会がこのように活発な活動が続けられるのは、三万人を越える会員の皆様のご協力のお陰と感謝しております。

今年の総会・パーティーは八月二日

に昭和五十年、六十二年卒の幹事学年の皆様のご尽力により、七百三十人の出席者を迎えての開催でした。最年長は昭和九年卒の九十二歳、最年少は平成十八年卒の二十一歳でその差七十一歳、歴史と伝統を有すればこそであります。ダンス・パフォーマンス、新日本フィルメンバーによる弦楽四重奏団の演奏を楽しんだ後、お互い旧交を温め合い、最後に同楽団の伴奏による校歌斉唱をして盛況裏に散会となりました。

さて、私は今年二回海外旅行に行く機会がありました。

最初は同窓会主催のカンボジア・ベトナム旅行で、年齢の壁を越えた和気藹々の楽しい旅行でした。次は三重県経済ミッションの一員としてブラジル

に行きました。

ご承知のようにブラジルは経済発展が著しいBRICs(B=ブラジル、R=ロシア、I=インド、C=中国)の一角を占め、また今年は日本からの移民が始まって百年目で、マスコミにもよく取り上げられています。

私が興味を持ったのは、ブラジルがサトウキビを原料とするバイオエタノールの世界一の生産国であり、自動車はガソリンとの混合液、或いはバイオエタノールだけで走っています。この新しい燃料は今や地球的課題である二酸化炭素削減に貢献が出来る、しかも再生可能なエネルギーで、石油が有限且つ価格高騰している状況下、世界中で普及するものと思われまふ。ある学者は埋蔵量に限界があり、環境汚染を引き起す地下資源から無限且つ環境と調和できる地上資源への転換が必要と述べていますが、そのことを実感した旅行

津高創立130周年及び 津高同窓会50周年記念事業 ごあいさつ	2
終戦、それから六十有余年 戦時下の女生生活 行くえ	3 4

文化を継承するということ おいなや 斎宮へ 中央アジアの「いちぞつ」 予防医学雑感 ハリウッドからの便り 副会長就任のご挨拶	5 5 6 6 7 8
---	----------------------------

思い出の景色 世界遺産アンコールワット ベトナム縦断八日間 同窓会学年対抗ゴルフ大会開催 進路状況 各地で同窓会開催	8 8 9 9 10 10
---	------------------------------

でした。

再来年は津高創立百三十周年、陳川・三重桜・津高の同窓会が合同し、津高同窓会として発足後五十周年になります。

す。記念事業委員会で会員の皆様に喜んで参加いただける記念事業を検討しておりますことを報告してご挨拶と致します。



タイトル・書「平成20年度同窓パーティーテーマ」より 工藤 雅俊(昭和45年卒)
絵「朝の門」 松本 高明(昭和39年卒)

津高創立130周年及び 津高同窓会50周年記念事業

記念事業のご案内

我が母校、津高は、明治13年1月に津中学校として開校以来、平成22年に創立130周年を迎えます。卒業者数も明治15年11月に第1回生が6名卒業以来、平成19年度現在、4万5千6百名を数えるに至りました。

この平成22年は、津高創立130周年を迎えるだけでなく、陳川・三重桜・津高の同窓会が合併し、新しい津高同窓会が発足して、50周年に当たります。この2つの節目を迎えるに当たって津高同窓会では、下記の事業を同窓生の絶大なご支援をいただきながら実施し、多くの方々とこの喜びを分かちあうことができればと思っています。

記念募金のお願い

津高等学校は、明治13年以來130年の輝かしい歴史を持つ三重県内で最も伝統のある学校として存続してまいりました。現会員数は約3万名を数え、多数の同窓生が、国内はもとより世界各国において活躍されていることは、ご同慶の至りであります。

このような素晴らしい歴史の節目としての130周年を多くの同窓生と祝おうと、数多くの意義ある記念事業の開催を企画いたしました。母校の発展と、同窓会の更なる充実を期したいと考えております。

- 1 海外旅行・国内旅行
- 2 経ヶ峰登山
- 3 ウォーキング大会
- 4 ゴルフ大会
- 5 美術展
- 6 受けた授業(恩師の授業や、現在活躍中の著名な同窓生の授業)
- 7 50周年記念事業報告を同窓会会報で特集
- 8 同窓会名簿発行
- 9 クリヤーファイル製作
- 10 津高創立130周年・津高同窓会発足50周年記念講演

等を考えています。

今回の市町村合併等で住所がかなり

そこで、これらの記念事業を成功させるため、同窓会員皆様の熱意に大いなる期待をし、記念募金をお願いいたします。大変厳しいご時世ではありますが、何卒よろしくご協力の程お願い申し上げます。

これまでの募金活動には、発起人会を設立し、趣意書を配布して、お願いしてまいりましたが、今回は役員会及び企画委員会が募金活動を行い、主として同窓会会報を通してお願い申し上げますことになりました。ご理解下さいますようお願いいたします。

変動したため、同窓会として住所録の整備が必要になり「新名簿」を発行します。津高同窓会は、5年前に発行した名簿と同額であることを条件に株式会社サラト(兵庫県姫路市北条宮の町172)と契約を結びました。飯田同窓会長のメッセージ入りで、しかも、津高同窓会事務局宛に返信する往復ハガキ



〈寄付金募集要項〉

1 募金の目的

- ① 創立130周年記念事業の実施
- ② 創立130周年記念の学校寄付

2 募金目標額

1千5百万円

3 寄付額

同窓会員一口5千円(一口以上)

4 寄付の払込み方法

- ① 郵便局からの払込み

同封の払込み用紙をご利用下さい。
口座番号 0820077-84907

(払込費用は不要)

で調査を始めるので安心してご協力ください。

「美術展」は、作品の製作期間を必要とするため、津高同窓会のホームページ等で来年、要項を案内する予定です。充実した美術展になるようにと願っています。

今回の事業の目新しい企画は、「受けた授業」です。津高校の教室で懐かしいあの先生の授業をもう一度受けてみたいとか、津高卒業生で現在国内で活躍の方々の中で、どの方の講義が聴きたいかのリクエストをいただきながら人選を進め、その方とのスケジュール等が合えば、現役の生徒と卒業生と一緒に講義が聴ける日を作りたいと考えています。

記念講演会については、学校・PTA・同窓会の三者が話し合っ、講演者の人選に入っているところです。

まだまだ、細部にわたって煮つめてはいませんので、この一年、しっかりと検討を重ねてまいります。

津高同窓会をますます発展させていくために、皆様方のご理解とご協力を切にお願いいたします。

- ② 銀行からの払込み

百五銀行本店

普通1089668

へ払込みください。

5 募集期間

平成20年12月1日より

平成23年5月31日まで

いあいさつ

学校長 渡 辺 久 孝



会員の皆様方には、ご健勝にて活躍のこととお慶び申し上げます。平素は本校の教育活動にご理解とご支援を賜り心から感謝申し上げます。

今年も八月の津高同窓会には約七百名の会員の皆様がお集まりになり、活気と風格ある会でした。また、名古屋

師の役割がここにあると感じさせていたいただきました。

さて、本年度も、授業力の向上やキャリア教育の推進などに取り組んでおります。文部科学省指定のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業も2年目となり、関わる生徒の真剣な姿勢には、今更ながら津高生の学問への強い好奇心と集中力、そして真摯な態度を感じさせられています。きっと将来の日本に、大いに貢献してくれるものと期待しています。

また、部活動はいずれの部も大変熱心に取り組み、陸上部、ボート部、将棋部、音楽部などは全国レベルで健闘しています。特筆すべきは、闇雲、翼君が

最も権威のある全国高校囲碁選手権で優勝したこと。この他に、大川世合奈さんは、ある全国規模の英語スピーチコンテストでベスト8に輝きました。

同窓生の皆様には、母校や生徒のために陰になり日向になり大変お世話になっております。本校のSSHを含むキャリア教育においても、多くの先輩方が指導者や講師など快く引き受けていただいております。さらに、部活動におきましても、備品や経費面でもご支援をいただいております。心から御礼申し上げます。

最後になりますが、会員の皆様のご活躍とご健勝をお祈りして挨拶いたします。

終戦、それから六十有余年

福田 英臣（陳川・昭和20年④卒）



昭和十九年四月、私は東京の中学から津中に転校しました。敗戦一年余り前のことで、父が病死し、兄二人が学徒出陣で、母と二人で両親の郷里三重に引越しました。一人で県庁に出かけて転校試験の手続きをした際に、鈴鹿

郡関町なら別の県立中を受けよと言われましたが、是非津中の転校試験を受けさせて下さいと頼み込み幸い、転校できました。暫くは新町の校舎で授業がありましたが、やがて勤労動員で航空機製作のため津、名古屋、鈴鹿の各工場で働きました。鈴鹿工場に数名の学友と派遣された時には戦争は敗色濃くなり一緒に働いていた工員さん達が残業や夜勤を始めました。学年主任の寺田重雄先生（津中の大先輩）が工場に見えた時に、「僕たちもやりたい」

と申し出ましたら、先生は少し間を置いてから優しい眼差しで「心意気はよく分かった。しかし、君達は決められた時間を懸命に働き、健康に気をつけて、少しでも時間があつたら勉強をしないさい」と諭されました。さらに「それが国のためでもあるのだよ」と言われました。

この寺田先生のお言葉は、現在でも最も深く私の脳裏に刻まれている教訓となりました。今では、教師が「勉強しろ」と言うのは当然でしょうが、当時は事情が全く違います。戦争一色で、戦争の役に立たないものは悪であり、そういう人間は非国民呼ばわりされていた情勢で、工場で毎朝仕事に着く前に「我らの生産は国運を決す。誓って

生産戦に勝ち抜かん」と合唱した非常時でした。あの時に寺田先生の言われたお言葉の真髄は、人生その時々で環境、背景など刻々変わるが、それらに左右されず、おのれの本分をしっかりわきまえて行動すべし、ということと後々理解できました。転校後の津中での変化の多い異常な学生生活は僅か一年間で終わり、敗戦の四月半前に卒業しましたが、良き友にも恵まれ、私にとって貴重な人生の一コマでした。

時移り六十余年を経た今日、日本は戦後の貧困から脱し、物質的には豊かな国になりました。その間、価値観、人生観も大いに変化してきました。実用主義が台頭し、行政、教育、研究等よく「評価」が行われます。大学は、

「真理の探究」の場とされていて、最近では国立大学は独立法人化され、常に評価されるようになっております。研究成果は社会のニーズに応えているか、論文を多く発表し研究費を多く獲得しているかなども評価の基準になってきました。しかし、真の評価はそのように早々とできるものではありません。教育の評価は一層困難であると思います。一般教育においても、生徒・学生は授業・講義において知識を得ますが、さらにインターネットなどでは得られない知恵と知的直観も授業・講義によって培われるものと思います。最近、大学でも学生向けに講義に関するアンケートを行っているところがあるようですが、その場合に学生はどうしても分かり易く試験にも合格できるような講義に高い評価点をつけるでしょう。しかし、本当は多少分かっていなくても、情熱があり考える力が養われていくような授業・講義の方が有難いでしょう。前述した寺田先生がもしあの戦時中今はやりの評価をされたとしたらどうだったか、と思つと慄然と致します。

話し変わって、本年度の文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権（男子個人）で三重県代表津高の闇雲、翼君が優勝しました。この快挙の朗報に接し大変嬉しく思いました。同窓生は何かにつけて母校津高校のことを案じ、大いに声援を送り、ご発展を祈念しております。（東京大学名誉教授）

戦時下の女学生生活

山下(飯田)郁子(三重桜・昭和18年卒)



当時、世間で「げんりつ」とよばれていた「三重県立津高女学校」に入学したのは昭和十三年四月でした。小学校五年の時に日支事変が始まり、日本が急速に戦争への道突き進んでいった時期です。銀色に輝く三重桜の徽章をセーラー服の右裾につけ、女学生になったことを嬉しく誇らしく感じたことを思い出します。

十三年に入学した私達は「菊組」でした。県立女学校では入学した年度毎にそれぞれ梅、菊、松、蘭、竹とクラス名がつけられ、入学した時につけられるそのクラス名は卒業するまで変わらず、卒業すると新一年生がそのクラス名を頂くという仕組みでした。諸行事の際使う襷の色も夫々、梅組は赤、菊組は黄、松組は緑、蘭組はピンク、竹組は青と決められていました。運動会の時など、一目で何年生の人なのかかわかりました。この制度は女学校が高校になるまでひきつがれ最後の入学生、即ち昭和二十一年の入学生に竹組

と名付けられるまで続いたようです。

名校長として名高い高畑朝次郎先生が私共の入学と時を同じく県立山田中学から赴任してこられました。「女子教育は初めて」と言われた先生は「万事に張りきって活動する、逆境にあっても毅然として立ち向かう強さ、あくまでゆかしくつつましく女らしさを保つ」等を目標に掲げられ「張りだ、気品だ、県立だ」の標語のもと私達は遅

行くえ

村田 和子(三重桜・昭和21年入)



後期高齢者になって、ようやく「行くえ」がおぼろげに見えてきた。

その昔、三月一日の卒業式を終えて、解放感と同時に言いようのない不安感に襲われたことが、なつかしく思い出されている。

それは、母の作ったお弁当を持ち毎日通う高校生活が、型にはめられ安心

しさを育てる教育を受けました。その教えは多くの卒業生の胸に深く刻み込まれ、戦中戦後の苦しい時代を生きぬく大きな力になりました。

毎日の学校生活は、運動場での朝礼訓示に始まり、学校関係者や父兄の戦死者の報告等に皆が悲痛な思いの中で黙祷をする日々でした。又、武運長久の祈願に、先生と三年以上の二人の生徒が「武運長久」と記した襷をかけ毎日結城神社、八幡神社に参拝しました。農家の出征兵士の留守家庭へ田の草取りや稲刈りのお手伝いに各班が分散して勤労奉仕に出掛けました。田んぼの

蛭やいなごに大騒ぎしながらの作業でした。食料増産の為、夏休みを返上して一週間程、集会所に泊まり込みで荒地開墾の勤労奉仕をした事もあります。出征兵士におくる千人針は寅年生まれの人には自分の年の数だけ作る事が出来たので授業中にも先生の話も上の空で千人針造りに一生懸命でした。いろいろ苦しい事の多い毎日でしたが、皆が力を合わせて一生懸命に過ごした日々を貴重な体験だったとしみじみ懐かしく思い出します。

三年の時、津観音寺境内にあった曙座で藤原歌劇団の公演があり、藤原義

まずは、経済的自立を考え就職した。後に縁あって結婚し、二児に恵まれた。

しかし唯生きていくのはむなしく、生きがい欲しかった。人間としてよりよい、しかも自分らしい生き様がしたかった。

長い年月を重ねてこそ光るもの、相手がなくても一人でできるもの、として選んだのが「書」の道であった。ちようど二十七歳の時であった。職業人、家庭人、書人としての道を歩み始めることとなった。

目前に漠然と広がるいくつもの道を見せたい世界は、次第に狭まり道の数も減ってゆきその分、道は太くたましいものに成長した。

しかし歩けど歩けど私の前にはレールがない。十年、二十年と月日は流れて気がつく四十有余年がたった。

江、三浦環のオペラ「蝶々夫人」を全館貸切で全校の生徒が鑑賞し、大いに感激した想い出は深く脳裏に残っています。



ある時、ふと振り返ってみると私の後方には、汗を流して耕した道が豊になつて、名もない花を点々と咲かせていた。まるで足跡のように。

自分の歩む道は、自分自身が汗を流して作るものであることを知った。やうと手作りのレールが遙か遠くにかすんで見えてきた。「行くえ」である。

「行くえ」は、高校時代のレールに似ていた。跡切れていたように思っていたレールは、私の身体の中で脈々としていたのである。

もう母はいない。これからは、手作りのお弁当を持って、見えてきたレールを静かにゆっくりと踏みしめてゆきたい。

母校に対し感謝の気持ちをこめて。

文化を継承するということ

和田 年 弥 (昭和39年卒)



技法や材質も多様です。これらは奈良の正倉院になる九千点の宝物とよく比較されます。正倉院は「シルクロードの終着駅」として、奈良時代の東西文化の交流がうかがえる至宝が保存されてきました。

神宮の御装束神宝の起源はこの正倉院とほぼ同じ時代ですが、大きく異なるのは、神宮の品々は伝世されるのではなく二十年ごとに新しく作られることです。ですから私はこれを「現代の正倉院」とよんでいます。新造品ですから国宝や重要文化財にはなり得ません。これで文化が継承できるのかとい

かぶる方もおりかと存じますので、参考までに私の体験をお話します。

昭和六十三年十月、一本の電話が入りました。「古墳の石棺内を数日後にマスコミに公開するので、その前に見にこないか」とのお誘いでした。その古墳は奈良斑鳩の里法隆寺の西方三百メートルにある藤ノ木古墳です。十月二十七日、胸のときめきを感じつつ、石室の入口で眼鏡以外の貴金属をすべてはずし、手術着のような装いになって、蓋が開けられた棺の中を覗き込みました。畳一帖ほどの広さの棺の内側は朱で真っ赤に塗られ、中に金銀まばゆいばかりの副葬品が所狭しと納められていました。永い眠りから覚めた鮮やかな色彩に惑わされないように目を懲らすと、美しく小さな玉をまとった

大刀が二振見えたのです。思わず神宮の玉纏大刀が思い浮かびました。実は玉纏大刀という刀は、神宮の御神宝として古くからよく知られていましたが、古代のものが土中などから発見された例は今までまったくありませんでした。いわば幻の大刀ともいえるこの玉纏大刀が六世紀後半の石棺の中からはじめて発見されたのですから、遷宮のもつ文化継承のシステムが大きな話題になりました。早速この大刀の復元模型を作ることにになり、私も委員の一人として参画しました。その際神宮の玉纏大刀が復元に大いに役立ったことはいうまでもありません。

これはほんの一例にすぎません。文化の継承に神宮の御神宝が役立つのは、二十年ごとに確実に規格、材質、意匠

技術を古式のままに再現して、その用途までも伝えていくからです。またそこには文化の復元力も備わっています。長く途絶えていた織物の「羅」や染色の「夾纈染」の技法が復興に成功したのは近年の好事です。

長年にわたって育まれた文化は、くらしに潤いを与え、心を豊かにする計り知れない効用があります。それはあたかも人間の身体を円滑に動かすために不可欠なビタミンの働きに似ています。共に主役ではありませんが、この脇役がしっかりしないと直情的になったり、感受性が鈍ったりします。殺伐とした不安定な現代にあつて、その世直しに、文化のもつ効能を今一度真剣に考えたいものです。

(神宮司庁祭儀部長)

おいなや 齋宮へ

瀧上 昭 憲 (昭和43年卒)



昭和43年に卒業しました。団塊世代(昭和22年から24年生まれ)の最終学年です。

定年退職の日もそう遠くない中で、今年の4月から、齋宮歴史博物館で働くことになりました。

県職員として地方財政、教育行政など管理事務を主に勤めてきた私ですが、文化振興・文化財保護に関わるのは初めて経験です。

今、三重県では「文化力」に基づく

政策を進めています。最後となるこの職場で、人間力・地域力・創造力(未来志向)の視点で施策を展開し、元氣な三重づくりに努めたいと思っています。

実際に、齋宮へ異動するまでは、伊勢神宮に仕えた齋王の住まいや役人が勤めていた役所(齋宮寮)があったらしいという程度の認識でした。

皇族の未婚女性の中から占いによって齋王が選ばれ、都での2年あまりの精進潔斎の日々の後、5泊6日かけて伊勢に赴くことや、齋王がその任を解かれて都に戻るができるのは、天皇の譲位や崩御・身内の不幸に限られ

ていたこと、伊勢神宮で行われる9月の神嘗祭、6月と12月の月次祭に出かける以外は、齋宮で貝あわせや歌を詠みながら優雅な日々を過ごしていたことなど、全くといってよいほど知りませんでした。

齋宮は、飛鳥時代から南北朝までの約660年にわたる制度であったにもかかわらず、資料が少ないため、長い間「幻の宮」として謎に包まれていました。しかし、昭和45年に発掘調査が開始され、これまでに一辺約120メートル四方の基盤の目状の地割や、齋王の住まいと思われる内院、齋宮寮頭の執務所のある中院や奈良時代の官道など、

伊勢の神宮では五年後の平成二十五年に第六十二回式年遷宮が行われます。二十一年一度、御社殿を新造し、その中の調度品もすべて新しく調えて、大御神の新殿へのお移りを仰ぐ行事で、千三百年前から続いています。そこには我が国の伝統文化が凝縮されていて、長い歴史を経て古式通り現代に伝わっています。世界にも類例のないこの行事に文化がいかに継承されてきたのか、その一端を垣間見ることにします。

遷宮は御社殿が新しくなるので通常の参拝でもよく分かりますが、神々の調度品である御装束神宝は、遷宮時に新殿に納められますので、直接見ることはできません。以前に奉納された御装束神宝は神宮の博物館である徴古館に展示されていますので、間近でその概要を知ることができます。

遷宮ごとに新調される御装束神宝は七十四種、一五七六点。その時代時代の名工によって精魂込めて作られます。服飾品、紡績・紡織具、武器、武具、馬具、楽器、文具など、種類は多く、

その実態が少しずつ明らかになってきました。

昭和54年に、甲子園球場の35個分に相当する約137haが国史跡「斎宮跡」として指定され、来年平成21年は、ちょうどそれから30周年という記念の年にあたります。そして、斎宮跡の発掘調査や文献調査の成果等を情報発信するため、平成元年に開館した斎宮歴史博物館も同時に20周年を迎えます。

博物館には、年間約7万人の来館者がありますが、全国唯一の貴重な文化遺産でありながら、斎宮の知名度はまだまだ高くはありません。斎宮をもっと身近に感じ、誇りと愛着を持っていただけるように今後の博物館活動を展開していくことが、私の今の使命と思っています。調査成果や資料を使ってどのように発信していくか、地域や社会に対し、どのようなアプローチができるかを日々考えているところです。

毎年開催しております歴史講座や古典文学講座によって、多くの方々に学びの機会を提供しています。今年度は、同窓生の倉本一宏氏(昭和52年卒)をお招きし、斎宮とも関わりの深い「壬申の乱」について歴史講座の講演をしていただきました。

史跡内にある「いつきのみや歴史体験館」では、十二単の試着や盤双六・蹴鞠といった平安の遊び体験により、王朝文化を身近に感じていただけます。また、6月のノハナショウワが咲く頃には「斎王まつり」が開催され、全国

公募で選ばれた斎王さんを中心に、華麗な「斎王群行」も繰り広げられます。津高同窓生のみなさん、三重県が全国

中央アジアの「ぐちそう」

丸山 純一(昭和48年卒)



仕事柄現在も海外出張することが極めて多いが、そのほとんどは欧米の先進国への出張である。今から書くのは、十年ほど前に私がロンドンの国際機関に勤務していた頃の話である。

当時の私は国際金融機関で中央アジア担当の局長をしており、その関係でカザフスタンやウズベキスタンによく出張していた。ある時、米国人の副総裁や同僚とともにカザフスタンのカスピ海沿岸地域を訪れた。副総裁も一緒だったこともあってか、その地方の州知事が我々のために歓迎の晩餐会を催してくれることとなった。夕刻になって我々は指定されたバーベキュー広場のようなどころに向いた(中央アジアは、だいたいどこでもそうだが、めったに雨が降らないので夕食会などが屋外で開かれることが多い)。

に誇る史跡「斎宮」にとぞおいなや。
(斎宮歴史博物館館長)

晩さん会が始まって一時間経ち、

宴もたけなわとなった頃のこと。何と知事が子羊の頭の丸焼きを大きなお皿に載せて現れた。その瞬間、私は内心「これはヤバイぞ」と思った。以前から「中央アジアでは羊の眼玉が最高のごちそうで、それは主賓にのみ供されるものである」と聞かされていたからいたらし、ジュンイチ、今夜の主賓は担当局長である君だからね。」と

予防医学雑感

佐々木

敏(昭和51年卒)



食の安全を脅かす事件が多発してい

暗に羊の眼玉は私が受け取るよう示唆してくる。私も相手が副総裁とはいえず、ここは譲るわけにはいかず、「あなたは副総裁、局長である私なんかよりずっと偉いのでから主賓は当然あなたでしょう。」とやり返す。

二人の間でそういうやり取りをしているうちに、セレモニーらしきものが始まった。くだんの知事が「Pさん(同僚の一人、あなたは私がカザフの耳となつて世界から情報を集めてくれました。ありがとうございます。）」と言いながらP氏の前に羊の耳(こんがり焼かれていて一応ウェルダン風に見える)を置く。続いて「Zさん(別の同僚)、あなたは私がカザフの口となつて世界に情報を発信してくれました。ありがとうございます。」といいながらZ氏の前に羊の唇を置く。といった具合にセレモニーが進んでいき、最後に「本日の主賓であ

るF副総裁と丸山局長、お二人は我がカザフの眼となつて我々の視野を世界に広げてくれました。」と言いながら、こんがり焼かれた羊の眼玉をひとつずつ副総裁と私の前のお皿に置いたのである。そう、副総裁も私も羊には眼玉が二つあるということをつかり忘れていたのである。

で、その後事態がどうなったかというところ、さすがに現地の人事情を承知して、我々が勇気を奮い立たせて眼玉のごく小さな切片を口に運んだ頃を見計らつてお皿を下げてくれ、彼らの間で分けておいしそうに食べていた。かくして私は、中央アジアでの一番のごちそうを丸ごとほろぼすという絶好の機会を逸したのである。残念といえば残念、良かったといえば良かったかも知れない。

(金融庁国際担当審議員)

われはその恩恵に預かつて暮らしているのだが「守られて当然」という甘えに陥りがちだ。同時に、現在のレベルを堅持するために国民が目光らせ続けねばならないこともまた当然である。ところが、自分自身の努力で健康を守ることに比べると、日本人は先進国の中では最低レベルに近い。男性の喫煙率は先進国中最高である。喫煙できる電車が走っている国はいまどき珍しい、公共の場所全部を禁煙化する方向に世界は向かっている。

さて、日本人でもっとも問題にすべ

き病気といえ、発症率と致死率、その後の生活の問題などを考えると、やはり脳卒中であろう。脳卒中の最大のリスクは高血圧であり、高血圧の原因のひとつに高塩分摂取がある。このことを知っている人は多いだろう。ところが、日本人の食塩摂取量はなかなか下がりず、現在にいたっても欧米のほとんどの国よりも高い。つまり、事故米や狂牛病の問題にこれだけ神経をこがらせる国民が、自分でできる健康問題の解決策である禁煙や減塩には無関心なのである。なお、降圧剤は薬が効いているあいだけ血圧を下げているのであって高血圧を治しているのではないことを知っておく必要もある。

私はいま、予防医学という領域の研究と教育に携わっている。どうすれば病気になる人を減らすことができるかを探り、その結果を実践に供する学問だ。「予防は治療に勝る」と医学では言い続けられてきたにもかかわらず、日本の医学部の教育と研究の体制、そして医療サービスの構造は治療中心の時代が続いた。それでも欧米諸国の流れや社会構造の変化などの圧力や要請を受け、国内の大学医学部にも予防医学を専門とする研究室が徐々に設けられるようになった。

では、予防医学の研究はどのように行われるのか。もっとも簡単な例をあげると、健康なたくさんの人（ときには数十万人）に参加していただき、生活の状況を細かく調査・収集し、その

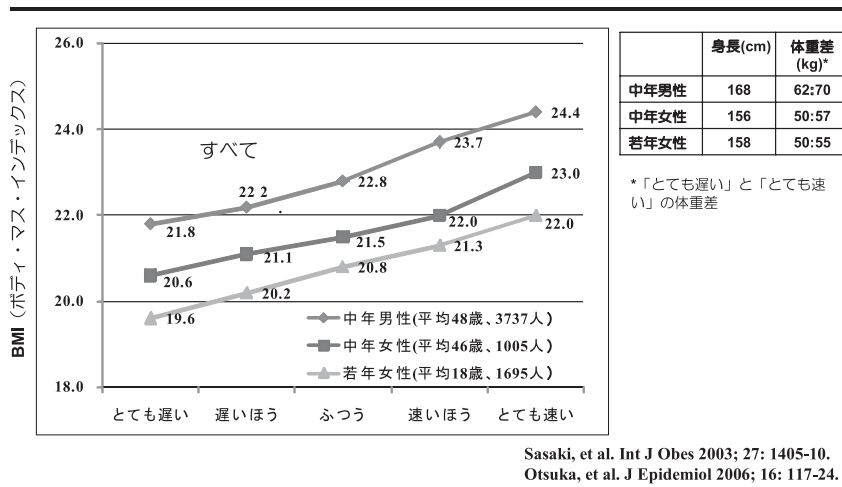
後（場合によっては数十年後まで）、だれが病気になるかを観察して、生活習慣と病気の因果関係を明らかにする。遺伝子検査を行い、遺伝子と生活習慣が病気に及ぼす影響を検討することもある。もう少し簡単には、生活習慣と健康状態を同時に調べることもあ

る。図はその一例である。肥満が気になる人に「ゆっくり食べる」ことがよく勧められるが、それに根拠を与えたのがこの研究である。

問題は、この種の研究にはたくさんの人の献身的な協力が不可欠だということである。海外では長年にわたって非

図

自己申告による「食べる速さ」と肥満度（BMI）



「自分で認識している相対的な食べる速さ」が肥満度に密接に関連していることを示す結果。性別や年齢にかかわらず、「とても遅い」人たちと「とても速い」人たちでは、2.4程度のBMIの差があることがわかる。これは体重にすると、5kgから8kgに当たる。

食べる速さと肥満度の関係

食べる速さがその人の肥満度に大きく関連していることを示した二つの研究。速食いが肥満によくないらしいことはかなり前から考えられていたが、この研究によって、どの程度の関連があるかが明らかにされた。

肥満度にはボディ・マス・インデックス(BMI)という単位が使われている。BMIは体重(kg)を身長(m)の二乗で割ったもの。単位はkg/m²。

ハリウッドからの便り

横山 智佐子（昭和57年卒）



突進して行く青春時代を送っていた。短大に進学し、しばらく目標を失った時再発したのが映画熱であった。

渡米後、がむしゃらに英語と映画を学び、映画に関することなら何でも経験しようと仕事を見つけ、それに没頭した。気づけば既に15年以上もハリウッドの映画産業で仕事をしている。この間迷ったり悩んだりしたことを全く憶えていない。立ち止まらず常に小走りで何かをやっていた様な感じである。当然自分が特異なことをやっているとは考えもしなかった。しかし8年ほど前、雑誌のインタビュー依頼が日本からやってきた。日本で公開になった映画のクレジットに私の名前を見つけて連絡をいただいたらしい。以来雑誌やテレビの取材を受ける様になり、それがきっかけで少しずつ自分の存在位置が見えてきた。

アメリカに来て早くも20年以上の歳月が経った。映画を学ぼうと留学したのがきっかけだが住み着いてしまうと、思ってもいなかった。学生の頃は確かに映画好きで暇があると映画館に通っていたが、クラブ活動に熱を上げていたので映画をそれほど重要なものとは考えていなかった。中学ではバレーボール部、津高では吹奏楽部で練習に明け暮れる日々を送っていた。「アタックナンバーワン」や「サインはV」等の熱血物語が流行っていた影響か、それとも自身が根っからの熱血人間だからなのか、何事にも目標を定めてそれに

常に活発に行われており、国内でも最近徐々に増えている。ところが残念なこと、三重県ではほとんど行われていないらしい。その意味では三重県民は、健康情報の消費者であって、生産者ではない。三重県の出身者としては残念な限りである。現在は東京を中心

に研究活動を行っているが、もしも縁があれば三重県民からの情報が日本人の健康を支える、といったようなことができないものかと考えている昨今である。

（東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻社会予防疫学分野教授）

5大スタジオがこの町にあるだけではなく、映像業界に関するあらゆるビジネス形態や製作会社が集結している。そしてそれらの企業体に所属する労働者と、フリーランスである俳優や製作クルーの人材。その数は膨大で、会社形態という傘下ではなく、映画産業という枠組みの中で労働組合が存在するほどである。編集室で働く私も所属会社のフリーランスであり、メンバー2万人以上を持つMotion Picture Editor's Guild(組合)に所属する。

本人の数は確かに少ない。最初は自分がインタビューされるに値する人間だとは夢にも思わなかったが、次第に自分が置かれたユニークな場所が見え始めた。そんな特異な状況を生かして何か自分に出来ることは無いだろうか？そこで2年前からロサンゼルスで映画学校を始めた。アメリカには映画を教える大学、専門学校はたくさんあるが、日本語で受講できる学校はもちろん無い。多くの日本人学生が様々な学校で、英語で受講しているが、英語が出来なくてもハリウッドの映画製作が学べる学校があってもいいのではないか。そ

副会長就任のご挨拶

葉山 俊郎 (昭和50年卒)



とが出来ました。今あらためてこの一年を振り返りますと、「津高同窓会の伝統と底力」を思い知った年だったと思います。

津高の良き伝統や友情の有り難みに対し、どちらかと言うとこれまで無自覚、無頓着でありました。しかし、この一年の活動を通じて、それらは決して蔑ろにしてはならないものだと思わずかしながら再認識した次第です。

今回身に余る大役を仰せつかりました。お受けした以上は伝統ある津高同窓会の発展のために微力ながら尽くして参りたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

今年度の全体同窓会では旧友たちと共に本幹事を務めさせて頂きました。若輩者と称するには面映い年齢ではありますが、言わば津高OBの「二里塚」を何とか通過させて頂いたばかりの者です。

この一年、多くの同窓生の皆様には絶大なご支援ご協力を賜りました。お蔭さまで何とか務めあげること

して現地で学んだ人々がその知識を持ち帰り、将来日本で新しい風を巻き起こしてくれたら。学校設立は新しい目標に向かっての、私の新たなスタート

思い出の景色

鼻谷 年雄 (平成6年卒)



ライン。既に45歳の誕生日を迎えている。どうやら熱血は私の生まれつきの性格らしい。(フィルムエディター/ISMP学校長)

というのは、そこで過ごした人自身の一部でもあるのだということこそ、胸に空地ができたような気分とともに知る。それなら、津高創立から百二十六年もの間に同窓の先輩方を見て、作ってきた思い出の景色の跡は、今どこに残っているのだろうか。おそろしく机や、壁や、柱の傷に。戦争や移転やらで大きく変わった時代もあるけれど、ひよっとしたら近くの木や、校庭の土や、空気の中に……、飛躍しすぎだろうか？

思い出の染みついた景色がなくなることは、寂しい。たとえそれがゲーセンやコンビニであっても、自分を育てた「自然」の一部であることに変わりは無い。さらに言えば、思い出の景色

今になってもう一度、彼に大きな声をかけたい。僕らがここに落としたものは、先輩たちにとって、どんな思い出の景色になっていくのだろうか。(フリーライター)

世界遺産アンコールワット ベトナム縦断八日間

荒木 幸子 (昭和31年卒)

一月二十九日、待望の遺跡群に到着。石造り、環濠と城壁に囲まれ広いの一言。壁面には絵が刻まれ、時代の服装や信仰の様子がわかった。森本右近太夫の筆字もかすかにあった。夕日鑑賞は、45度の石段を登り寺院の天辺へ。

三十日、日の出を見に。途中池から

わき上る霧が寺院をつつすらと包み、それは幻想的であった。タプロムは遺

跡発見当時の景観で巨大なガジュマルの樹々に食い込まれ、つくづく自然の恐ろしさを見た。三十一日、午前中ホーチミン市内散策。車は渋滞で、その隣をバイクが軍団となり、騒音と警笛のすごいこと。信号も少なくなきこりっぱい。横断は決死の覚悟。

トンレサップ湖の水生活者、二部授業の子供達が、親と一緒に働いてい

る。細い木の高床式、風に飛ぶような椰子の葉の家。ここの生活は、戦災時のバラック小屋ぐらし。今の豊かさすぎるというか、贅沢というか、世界にこいつら人々が現にいることを心しなければと、胸がいたい。

二月一日、フエ市、日本の京都といわれ王宮、帝廟がある。建物、盆栽等に中国系の流れを感じる。市場の賑わいは、旧正月の買い物客で庄倒される。二日、ハノイ市、ホーチミン廟へ、今

もホーおじさんと親しまれているそうだ。水上人形劇鑑賞。三日、ハロン湾クルーズ。桂林の山々が海から突き出している風景。郊外は三毛作で、牛と人の手のみの田植。二十年ぶりの寒さとかで冷たかろうと思った。すべて「百聞は一見にしかず」。感動、感動。密林の遺跡を包む夏の靄

同窓会学年対抗ゴルフ大会開催

伊藤 武 治 (昭和39年卒)

去る3月30日(日曜日)、津高同窓会有志による学年対抗ゴルフ大会が、三鈴カントリー倶楽部において開催されました。今回のゴルフ大会は、同窓会のますますの発展と、会員各位の親睦を図るとともに、ゴルフの盛んな学



大会が待ち切れない」という声に応えるべく、若干赴きを替えて学年別団体戦を主に開催されました。当日は、昭和26年卒の大先輩から47年卒迄幅の広い世代が、又関東、関西地区等の遠路からも多数参加頂き、17学年 47組 総数179名の盛大な大会となりました。残念ながら後半は小雨の中でラウンドとなりましたが、全員が元氣一杯に日頃の腕前を存分に発揮され、和氣あいあいの楽しい一日を過ごされました。又、ラウンド終了後は小柴副会長の司会・進行のもと、飯田同窓会会長にご挨拶をいただいた後、表彰式がとり行われました。メインの栄えある団体優勝は、地の利、数の利で我が39年卒となりました。個人優勝は、最年長組の飯田高司氏が並み居る後輩を抑えて、

見事優勝されました。主な成績は以下の通りです。

団体戦
優勝 39年卒 209・6ストローク
(上位3名のネットスコア合計)

2位 36年卒 211・6ストローク
3位 26年卒 213・0ストローク
B B 28年卒 229・2ストローク
来年以降も、学年対抗戦が、継続されることを楽しみにしております。



平成20年度の

総会・パーティーを終えて

実行副委員長 伊東 直人 (昭和62年卒)

「次世代へのメッセージ——新たな伝統——」というテーマのもと、津センターパレスホール・津都ホテルを会場に平成二十年度陳川・三重校・津高同窓会総会・パーティーが開かれました。

今年は、ヴィオラ奏者の吉鶴洋一様を迎え、新日本フィルハーモニー・すみだ弦楽四重奏団の優雅な演奏会でお楽しみいただき、明るい雰囲気でご懇親会がはじまりました。津高ダンス部O



Bによるダンスパフォーマンスなど盛り上がる企画が続きました。次年度幹事学年の挨拶に続いて、新日フィルの生伴奏で校歌を斉唱し、和やかな雰囲気の中パーティーが終了しました。不安もありましたが、たくさん集まってくれた幹事学年の仲間にも勇気づけられ、この日を迎えることができました。いろいろと至らぬ点もあったと存じますが、このような機会を与えていただき本当に感謝いたしております。また、参加していただいた同窓生の皆様、本当にありがとうございました。



進路状況

進路指導部 土方 清 裕

進路指導部では、三重県のトップ校として、単に大学合格だけを目的とするのではなく、大きな「夢」と「志」を持った人間を育てたいとの思いを持って、日々指導にあたっております。進学指導が出口指導だけに終わらぬよう、キャリア教育の視点に立って、人としての力を高めたいと考えています。そのために、課外授業やLHRでのガイダンスの充実のもと、「自分探し」と称して、知的好奇心を高め、自己選択力をつける企画を多く取り入れていきます。具体的には、大学模擬授業、医学部体験、卒業生座談会等を実施しています。また、小論文講座も二・三年生に実施予定で、論理的思考力の育成にも努めています。これらの企画を実施するにあたって、中山正隆様(昭44年卒)、多くの大学生OBを初めとして同窓生の皆様にひとかたならぬご理解

力をお願いしております。改めて御礼申し上げます。

一方、今春の進学状況は国公立大学合格者三九名は県下のトップ、また旧帝大を初めとする難関大合格者は七

八名、国立大医学部医学科六名と、大変健闘してくれました。中でも、東京大六(現役五)名、京都大一(現役二)名の現役合格数は、過去最高であつたと思われます。この結果を踏まえながら、一人一人の生徒を大切に、これからも努力をしてみたいです。今後とも指導よろしく願っています。

(大学合格者数)

	国立	公立	私立	短大
(2008) H20年	199	40	721	12
(2007) H19年	233	47	836	18
(2006) H18年	242	48	787	8
(2005) H17年	211	48	687	7

(進路状況)

	北海道	東北	筑波	東京	一橋	東工大	東京外大	横国大	静岡	金沢	信州	名古屋	名工大	名古屋市立	三重	県立看護	京都	大阪	大阪外大	大阪府立	大阪市立大
(2008) H20年	4	1	1	6	3	1	3	2	2	8	5	21	14	5	55		11	25		10	7
(2007) H19年	6	3	1	3	4	1	1	6	6	8	7	31	2	9	64	5	12	17	1	10	4
(2006) H18年	7	2	4	4	3	3	2	3	6	7	3	20	11	11	79	0	9	20	3	12	2
(2005) H17年	7	3	8	3	2	1	4	2	10	8	1	14	12	7	62	1	11	8	2	7	5

神戸	奈良	広島	慶応	早稲田	上智	青山学院	中央	東京理大	日本文	明治	法政	立教	南山	名城	皇学館	龍谷	京都産業	同志社	近畿	立命館	関西	関西学院
6	1	2	11	27	3		10	28	11	15	5	3	42	50	26	12	11	62	34	93	47	32
10	1	6	17	26	5	8	20	40	4	21	6	4	46	59	28	10	10	67	31	91	51	34
11	4	3	19	28	3	8	15	33	11	12	9	8	36	39	35	19	9	56	34	112	48	39
6	4	4	14	30	1	2	5	13	9	15	3	5	32	33	20	10	13	33	38	108	34	16

各地で同窓会開催

東京同窓会



恒例の東京同窓会は、5月31日(土)霞ヶ関ビルにて、開催。参加者は17名と近年になく大勢と盛会。谷口武会長

の歓迎の言葉に始まり、飯田俊司本部同窓会長の挨拶、渡辺久孝校長による母校近況報告があり、続いて原宣一君(昭和36)による「国際宇宙ステーションと日本の宇宙飛行士」のタイトルの講演は初めての試みで好評。懇親

会は、中川亮太先生の乾杯で開始、宴半ば今春の大学新入生真弓浩明君、吉川佳奈さんが抱負を述べ、早大ボート部清水大輔君が活躍振りを披露。若手代表で阿部美幸さん、工位夏子さん、

名古屋同窓会

本年度、名古屋同窓会では9月13日(土)に名古屋東急ホテルで147名という昨年を上回る多数の参加者により盛大に催されました。まず、総会に先立って恒例のミニ後援会が行われました。今年は講師に川原啓美先生(陳川昭和20年④卒)を迎えアジアの諸外国で活動する医療の現状をお話いただきました。

年長者では90歳の信藤節子さん、前田富美子さんの両名等が元気に楽しい話題を提供。森下先生の締めめの言葉、校歌斉唱。最後に来年度幹事への引継ぎ式では、一層の参加者増・活性化を誓い閉会。

(昭和36年輪番幹事)





第42回津高大阪同窓会は、11月9日(日)午前11時から、天王寺都ホテルにて行われ、同窓会本部から、飯田俊司会長、藤岡美也子副会長、事務局佐々

大阪同窓会

村田 直哉(昭和62年卒)

した。先生は数多くの写真を持参して、他国の人々の病との戦いや、命に対する考え方の違い、また愛知国際病院の開設に至る経緯など非常に感銘をうけるお話をされました。その後、総会、懇親会と続き、にぎやかな会話で会場はいっぱいになりました。楽しい雰囲気の中、最後に陳川、三重桜、津高の順で校歌斉唱が行われ、先輩方がともにお元気で後輩を圧倒していました。来年度に向けてたのしいかぎりの空気の中で閉会となりました。

木とし子様、津高より渡辺久孝校長先生、恩師の家垣岩雄先生、佐野由子先生をお迎えし、会員133名が出席し盛会に行われました。

総会では、牛田利治津高大阪同窓会副会長、各ご来賓のご挨拶の後、大坂弁護士会の森下弘弁護士による「裁判員制度」あなたも選ばれます」という演題で講演が行われました(企画は昭和37年卒)。その後、長谷川辰夫氏の発声により乾杯が行われ、会食、懇談にすすみ、落語家林家染谷さんの落語を楽しみ、校歌と「故郷」を斉唱し、来年の再開を約して閉会となりました。

牛田 利治(昭和37年卒)

九州・京都同窓会

本年度は開催されませんでした。

寄付

陳川申西会より

昭和13年津中卒業の一見査一様よりお申し出があり、陳川申西会会員の皆様が慶弔金として運用してこられた二二、一〇五円を同窓会基金にご寄付いただきました。一見様の奥様が同窓会室へご持参いただき飯田会長が受領され、有効に使わせていただく旨お伝えいたしました。

物 故 者

謹んでご冥福をお祈りいたします。

(平成20年11月10日現在)
(敬称略)

客員	小 竹	惟	19	近 藤 昭 朗	15	近 藤(高畑) 正	27	近澤(佐野)あき子
	岡 田	堯	20④	矢 原 房 男	15	田 端 通	27	八張(水田)節子
17	佐 藤 秀 生	20④	加 藤(青木)嘉典	16	八木(針谷)花枝	27	近 藤 皓	
陳S 2	福喜多	進	22	山川(小島) 豊	16	飯 田 美千代	28	前 田 将 美
3	市 川	巖	23	浅井(黒川)隆志	18	大 瀧 シヅ子	28	奥山(荒木)建男
6	小 森	勝	24	鎌 田 勲	18	村田(高倉)保子	28	安田(木平)朝子
7	本 田 宗 雄	20入	大 江 皓 雄	18	尾崎(出口)愛子	29	別 所 清	
9	油 田 恒 夫	20入	柏 木 弘 雄	19	松浦(国府)圭子	29	堀 昌 夫	
9	芝 山 半之丞	21入	笠 井 裕 教	19	松 原 (岡) 澄子	29	水谷(山本)京子	
10	山 邊 富巳生	三T 12	臼井(駒田)静子	19	吉村(柳井)美恵子	30	伊 東(青木)國男	
12	中 津 宗 男	13	片山(瀬古)みね	19	金村(宮崎)トシ	31	倉 橋(稲垣)瑞子	
12	倉 田 二 郎	14	村田(田中)はる	20	黒田(稲垣)よし子	31	畑 法 朋	
12	永 井 兼 一	S 2	伊 藤(田中)清子	20④	小川(牧野)羊子	34	洲 崎 守 夫	
13	生 駒 芳 美	2	前田(東海)志ず	20④	今村(郷原)寿子	34	毛 利 妥	
13	麻 生 直	4	野間(鈴木)綾子	20④	萩原(諸岡)圭子	34	荒 木 俊 彦	
14	佐 野 新	5	山上(藤村)たゑ	21	堀内(亀井)妙子	34	田 中 ツヤ子	
14	羽 田 幸 夫	6	片岡(稲垣)貴美子	22	伊東(伊東)千代子	36	瀬 尾 恭 弘	
14	鳴 海 正 寛	12	加 藤 美 智	高S 24	林 平 和	38	藤 井 真 平	
15	小 林 金 生	12	山本(増田)淑子	25	笠 井 道 男	40	今 井 正 彦	
16	池 山 紋 男	12	中西(今中)順子	25	曾 原 昭 一	40	西口(岡田)篤子	
17	北 住 省 二	13	宇高(荻原)貞子	25	向 山 清	43	大 浦 峰 郎	
17	大 北 威	14	吉田(中野)伊都子	26	北 川 健	52	行方(高士) 明	
17	黒 川 忠 文	14	栗山(井田)と志	26	辻 井 謙 二	52	山 川 和 男	
18	宮 田 尚	14	草 川 千代子	27	佐 藤(伊藤)民子			
18	生 駒 正 美	14	栗田(中川)信子	27	竹田(中村)弘子			
18	須 川 六 郎	15	後藤(赤塚)千鶴	27	中 川 準之助			



お知らせ

平成二十一年度 同窓パーティー

日時 平成二十一年八月一日(土)

午後三時より

場所 津センターパレスホール

津都ホテル

担当学年幹事

昭和51年卒(代表 大萱 隆久)

昭和63年卒(代表 松本 哲治)

次年度同窓会を

担当するにあたって

運営委員長

大萱 隆久(昭和51年卒)

来年度の同窓会は、津高51年卒・63年卒が企画・運営を担当致します。11年前、副幹事として総会パーティーの運営に参加し、得ることのできた39年卒先輩方との良き出会いと体験を、63年卒の後輩たちと分かち合えることを楽しみにしています。

同皆様の記憶に残る同窓会になるよう頑張る所存です。

副幹事である昭和63年卒の学年会を1月3日(土)津市なぎさまちの「バイシスカ」で開催予定です。同窓パーティーに向けての心強い協力学年の動きを頼もしく感じています。

「自由・自主・自律」の校風の中で人生の三年間を共有した同級生たち。

学び、語り合い、笑い、涙し、夢を見ていたあの頃…。学生時代、母校の思い出とともに新たな出会いの場として、また学年を超えた交流創出の場としての総会パーティーを演出する予定です。

なにごん不安定な世情の中(…)まで出来るのか未知数ですが、担当学年一

津高同窓会のホームページ

http://tsuko.jp/

メールアドレス
office@tsuko.jp

TEL・FAX 059-229-7331

楽しい企画にご参加を!!

★第二回学年対抗ゴルフ大会

昨年に引き続き学年対抗ゴルフ大会を開催する事となりました。各学年の人数制限はございますがふるってご参加下さい。

日程 平成二十一年

三月二十九日(日)

場所 三鈴カントリー倶楽部

(鈴鹿市小社町七六七)

参加費 一六、〇〇〇円

(キャディ・昼食付)

★大人の修学旅行——奈良・京都の旅

はじめての国内旅行を企画いたしました。銘打って「大人の修学旅行」

奈良・京都(祇園)の旅です。古都

奈良を見学し、祇園では舞妓さんとお座敷での宴会をお楽しみいただきます。

日程 平成二十一年

三月二十日(金・祝)

三月二十一日(土)一泊二日

(プレー費パーティー代金を含む)

申込締切 平成二十一年二月十三日(金)

定員 百六十名

(定員になり次第〆切)

各学年は三名以上十六名以内

(厳守)

※お問い合わせ・お申し込み先

津高同窓会事務局

TEL 059-2229-7331

費用 一人 三九、八〇〇円

定員 四十名

(定員になり次第〆切)

申込締切 平成二十一年二月末日

※お問い合わせ・お申し込み先

三交旅行津営業所

(鈴木・平田)

TEL 059-2224-5151

◆4つの委員会が発足

今年度6月の代議員会で同窓会の会則が改定されました。新たに委員会を設けることが決まり、企画委員会、会報編集委員会、IT委員会、記念事業委員会の4つの委員会が発足することとなりました。

それぞれの委員長には副会長のなか

冊子発刊のお知らせ

昭和二十四年津中並びに県立高女を卒業された有志による「1945年夏」という冊子が発刊されました。終戦の年、津中と県立高女の二年生だった当時の思い出をつづった随筆集です。お求めは別所書店で。



事務局だより

▼会報四十八号を三万四千五百部発行しました。会員、在校生の皆様にお届け致します。

▼ホームページを再開しています。

130周年記念事業など、どんどん発信していきたいと思ひます。

▼ペーパーレス化にご協力下さい。

現会報はホームページにも掲載されています。今後、会報はホームページでご覧になっていただき、送付不要にご協力いただける方はメールにてご連絡下さい。

▼株式会社「サルト」(姫路市)より名簿作成の調査カードを、来年よりお送り致します。ご協力お願いいたします。返信先は、津市新町三十一一津高同窓会宛です。返信先が津高同窓会以外のものについては関係ありませんので、ご注意下さい。